

第42回建設業経理事務士検定試験

3級試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 甲工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号(A～X)と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた(例)に対する解答例にならって記入しなさい。(20点)

(例) 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 工事が完成したので発注者へ引き渡し、前受金¥600,000を相殺した残額¥900,000を発注者振出しの小切手で受け取った。
- (2) 建設資材¥800,000を購入し倉庫へ搬入した。なお、代金の支払いは手持ちの約束手形を裏書譲渡した。また、搬入に伴う引取運賃¥20,000は現金で支払った。
- (3) 下請業者に対する外注代金¥3,000,000を小切手で支払った。ただし、当座預金の残高は¥2,000,000であり、取引銀行とは当座借越契約(借越限度額¥1,200,000)を結んでいる。なお、当座預金勘定とは別に当座借越勘定を設けている。
- (4) 工事現場へ搬入した資材の一部(代金は翌月末払い)に不良品があったため、¥62,000の値引きを受けた。
- (5) 前期に計上した得意先に対する工事代金の未収分¥600,000が、回収不能となった。なお、貸倒引当金勘定の残高¥500,000がある。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 完成工事未収入金	D 受取手形
E 材料	F 貸倒引当金	G 未払金	H 工事未払金
J 当座借越	K 支払手形	L 未成工事受入金	M 完成工事高
N 労務費	Q 材料費	R 外注費	S 通信費
T 貸倒引当金繰入額	U 貸倒損失	W 完成工事原価	X 損益

〔第2問〕 次の原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。(12点)

原価計算表

(単位：円)

摘 要	A工事		B工事	C工事	合 計
	前期分	当期分	当期分	当期分	
材 料 費	185,320	85,500	340,210	523,750	1,134,780
労 務 費	× × ×	× × ×	154,330	136,250	498,440
外 注 費	83,220	× × ×	× × ×	230,990	530,190
経 費	× × ×	12,990	58,560	× × ×	181,630
合 計	× × ×	196,930	723,300	× × ×	× × ×
備 考	完 成		完 成	未 完 成	

未成工事支出金

(単位：円)

前期繰越	464,740	完成工事原価	× × ×
材 料 費	× × ×	次 期 繰 越	× × ×
労 務 費	343,240		
外 注 費	446,970		
経 費	140,630		
	× × ×		× × ×

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（20×6年11月30日）を完成しなさい。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。（30点）

<資料1>

合計試算表

20×6年11月15日現在

（単位：円）

借方	勘定科目	貸方
1,720,000	現金	360,000
1,926,000	当座預金	1,460,000
1,320,000	受取手形	980,000
1,230,000	完成工事未収入金	480,000
810,000	材料	203,000
1,392,000	車両運搬具	
198,000	備品	
1,680,000	支払手形	2,230,000
422,000	工事未払金	978,000
1,030,000	借入金	3,912,000
831,000	未成工事受入金	1,930,000
	資本金	2,220,000
	完成工事高	2,980,000
1,450,000	材料費	
1,582,000	労務費	
628,000	外注費	
630,000	経費	
780,000	給料	
62,000	支払家賃	
42,000	支払利息	
17,733,000		17,733,000

<資料2> 20×6年11月16日から11月30日までの取引

- 16日 本社事務所の家賃¥97,000を支払うため小切手を振り出した。
- 17日 材料¥140,000を本社倉庫より工事現場に送った。
- 18日 取立依頼中の約束手形¥300,000が期日到来につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 21日 工事代金の前受金として¥580,000が当座預金に振り込まれた。
- 22日 外注業者から作業完了の報告があり、その外注代金¥240,000の請求を受けた。
 - 〃 完成した工事を引き渡し、工事代金¥1,000,000のうち前受金¥400,000を差し引いた残金を請求した。
- 23日 現場作業員の賃金¥430,000を現金で支払った。
 - 〃 本社事務員の給料¥260,000を現金で支払った。
- 25日 支払手形のうち¥360,000が期日到来につき、当座預金から引き落とされた。
- 27日 工事現場の電気代¥23,000を現金で支払った。
- 29日 材料¥470,000を掛けで購入し、本社倉庫に搬入した。
 - 〃 完成し発注者に引渡し済である工事の未収代金¥300,000を小切手で受け取った。
- 30日 借入金¥400,000、工事未払金¥250,000の支払いのため、それぞれ小切手を振り出した。
 - 〃 借入金の利息¥18,000が当座預金から引き落とされた。

〔第4問〕 次の文の の中に入る最も適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を解答欄に記入しなさい。 (10点)

- (1) 受取利息は a の勘定に属し、前受利息は b の勘定に属する勘定科目である。
- (2) 固定資産の補修において、当該資産の耐用年数を延長させるような支出を c という。
- (3) 完成工事未収入金の回収可能見積額は、その勘定の d 残高から e を差し引いて計算される。

〈用語群〉

ア 資産	イ 負債	ウ 期首	エ 費用	オ 収益
カ 資本的支出	キ 修繕費	ク 収益的支出	コ 減価償却費	サ 貸倒引当金
シ 付随費用	ス 期末			

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されているX工務店の当会計年度（20×7年1月1日～20×7年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。 (28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 現金過不足の残高¥500を雑損失勘定に振り替える。
- (2) 機械装置（工事現場用）について¥72,000、備品（一般管理用）について¥16,000の減価償却費を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して3%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (4) 有価証券の時価は¥203,000である。評価損を計上する。
- (5) 保険料には前払分¥10,000が含まれている。
- (6) 借入金利息の未払分¥13,000を計上する。
- (7) 未成工事支出金の期末残高は¥660,000である。